

work 2

注力分野一覧表を作ってみよう

単元の目標

自分自身が関心のある政策分野を知ること

人によって気になる政策分野が異なることを知ること

単元の目標

本ワークでは、生徒が自分自身の重視する政策分野を知ること、重視する政策分野は人それぞれであることを学ぶことを目標としています。そのため、ワークの構成は、個人ワークとグループディスカッションによって構成されます。

なお、対象とする選挙において、候補者（立候補表明者）がマニフェスト・スイッチに政策を登録している場合、候補者の注力分野一覧表を参照することができます。生徒自身が作成した政策分野一覧表と候補者の政策分野一覧表を比較することを通して、グループディスカッションに代えることも考えられます。

単元の目標

時間	学習内容	生徒の学習活動
5分	注力分野一覧表を作成する	注力分野一覧表・グラフの作成を通して、自分自身の政策分野への志向を可視化する
15分	作成した注力分野一覧表をグループ内でシェアする	グループで、メンバーそれぞれの政策分野一覧表及び作成理由などを共有する

準備物

- ワークシート
- 対象とする選挙における候補者（立候補表明者）が記入した注力分野一覧表

主権者教育と本ワーク

私たちは、どのような社会問題の解決を重要だと考えているのでしょうか。また、その考えはどのように形成してきたのでしょうか。若者にとっての高齢者への医療費補助の問題や、すでに年金生活を送る人にとっての給付型奨学金やブラックバイトの問題等、それぞれの立場から身近なものも縁遠いものも、社会には様々な問題が存在しています。そのような中で、同じ社会に暮らす「ほかの誰か」に取って重要な問題や取り組みの存在自体を知らずに自身の意見を形成していることはないでしょうか。

永らく深刻な少子高齢化が続く日本は、（高度経済成長期に代表される）政治を通して成長の果実の分配方法を定める時代から、政治を通して負担の分担の仕方を決めていく時代へと変わっています。

本ワークは、注力分野一覧表の作成を通して政策分野を網羅的に学ぶとともに、社会問題の解決のために用いることのできる資源の有限性に目を向けさせることで、相対的な順位づけ、ひいては自分自身の政策分野に対する関心や態度を確認する機会を提供します。その結果を可視化することで、他者との間での議論の素材を得ていきます。

注力分野一覧表を用いた議論は、他者との違いを明確にし、対話を通じて、多様な価値観、考え方が存在することを知る機会となります。注力分野一覧表に表された個々人の選好は優劣がつけられるものではありません。そこにおいて、それぞれの違いを認識しあうことは、「自分自身の価値を尊重し、互いに他人を尊重しあう」民主主義の精神の理解へと至るきっかけとなります。

注力分野一覧表の作成、対話をきっかけにして、民主主義の精神へと理解を深めていくことは、話し合いや選挙による決定の重要性を理解することへとつながっていくことが期待されます。

本ワークと選挙について

異なる価値観を持つ人たちが暮らす社会において、問題解決のための限られた資源の使い方を決める手段として、選挙は重要な機会となります。

本ワークが提供する方法は、生徒たちが抱く政策への関心や態度を可視化し、感覚的に理解することを可能にします。加えて、その情報の根拠を様々な視点から検討することで、より深い思考へと導くことも期待されます。

例えば、「注力分野一覧表の割合は、実行されるべきと（自身が）考える政策の量を表しているのかどうか」、「注力分野一覧表の割合は、自分自身が重視すべきと考えた心情に基づいて作成したものなのか、具体的な予算の配分状況などの物理的な根拠を踏まえて作成したものなのかどうか」、「注力分野一覧表の割合は作成する時期や状況によって変わることはあるのか」など、様々な問いかけが考えられます。

注力分野一覧表やグラフを用いて、自分自身の政策への関心や態度を感覚的に理解した上で、様々な考えから作成する方法があることを知ることは、集めた情報を読み解き、考察をする訓練となります。このようにして、政治的リテラシーを高めていくことで、投票の質を高めていくことが期待されます。

展開の仕方

○説明

説明例

「私たちが問題解決を考えた際に、予算や対応する人など、使うことのできる資源・材料には限りがあります。このまち（国）にも、様々な課題がありますが、どの問題にどの程度注力したらよいのでしょうか。皆さんのそれぞれの意見をまとめてみましょう。」

○活動

1. 注力分野一覧表の作成、図示

説明例

「皆さんがどの政策分野にどれだけ注力して取り組んでいく必要があると考えているのかを、ワークシートに埋めていきましょう。なお、記入にあたっては、各分野の値を合計した値が100になるよう、それぞれ整数値で記入してください。」

「一覧表が完成したら、その割合を基に、円グラフを作成しましょう。」

2. グループディスカッション

説明例

「皆さんが作成した注力分野グラフについて、グループ内で共有しましょう。その際、なぜその配分になったのかを説明するようにしてください。」

○まとめ・振り返り

▼レクチャー

説明例

「同じ社会に存在する問題であったとしても、何をどの程度重視するのかといった意見は人それぞれです。」

「問題解決のために費やすことのできる資源・材料は有限であり、民主主義の世界では、話し合いに加え、最終的には選挙を通じて私たちの意見を政治の世界に届けていきます。」

「投票先を決める際に、候補者がどのような分野を重視しているかを知ることは、大きな把握の仕方として有益な手段になります。」

▼リフレクション（問いかけ）

「皆さんが選んだ注力分野の割合＝政策の実行量となるでしょうか？」

「注力分野の割合は、例えば大規模な自然災害が発生した時に変化しますか？」

「注力分野の割合は、1年後も同じですか？」

CASE 【重視する政策分野】

選挙も近づき、生徒たちは自分たちが暮らすそれぞれのまちのことを調べ始めたようです。



いろいろな政策分野があるかもしれないけど、僕は雇用政策に興味があるんだよね。もうすぐ僕も当事者になるし。

当事者になると言ったら、先日からおばあちゃんがデイサービスを受け始めたんだけど、もっと頻度多く来てもらいたそうだったなあ。社会保障に力を入れてくれるのは誰だろう。



2人が重視している政策分野は異なっているのだね。どうせなら、全部の分野で同じように頑張ってくればいいのに。あ、でもそうすると予算が足りなくなってしまうのか。

自分自身が注力する政策分野とかかわりを持つかどうかといった観点でディスカッションが行われているようです。

注力する政策分野が異なる場合、どのような事態が起こるのでしょうか。

ワークシート（地方政治版）

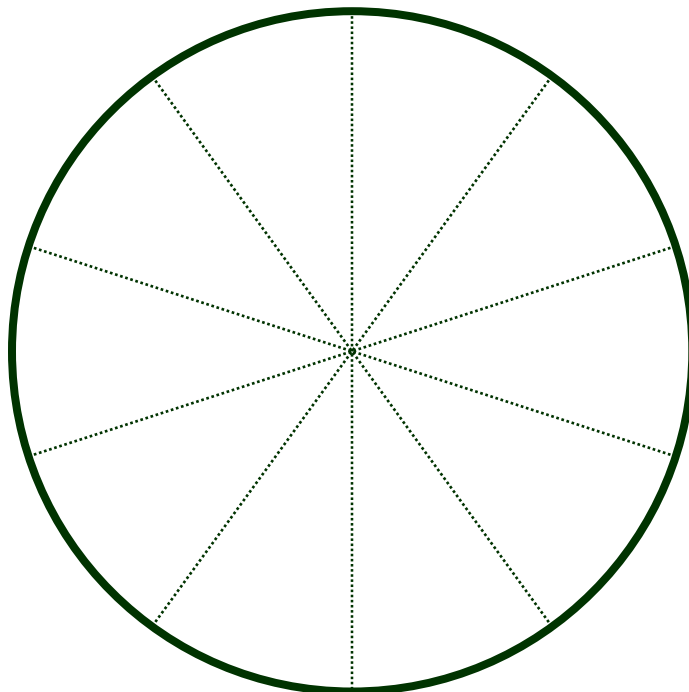
① 注力分野一覧表を埋めてください。

政策分野	政策注力度	政策分野	政策注力度
社会保障	%	税財政・財政再建	%
産業政策	%	労働	%
社会資本整備	%	環境・エネルギー	%
教育・子育て	%	行政・議会改革	%
農林漁業	%	安全・防災・震災復興	%

記入にあたっての注意

- 政策注力度は合計が100%になるように記入ください
- 政策注力度は整数で記入ください
- 0%や" "（空白）も可能です

② 政策注力度の円グラフを作成してください。（補助線の目盛り：10%ごと）



ワークシート（地方政治版）

政策分野の内訳

社会保障・・・医療・介護・年金や社会的弱者に対する取組など

産業政策・・・企業への支援や規制、企業活動のインフラ整備など

社会資本整備・・・物理的なまちづくりの取組や道路網の整備など

教育・子育て・・・学校教育や子育て支援、文化振興の取組など

農林漁業・・・食の安全や農業や水産業の振興に関する取組など

税財政・財政再建・・・税制や財政に関する取組など

労働・・・雇用や就職支援、就労環境整備に関する取組など

環境・エネルギー・・・公害や環境問題、エネルギー政策に関する取組など

行政・議会改革・・・組織のスリム化や民間事業者との協働推進などの行政・議会それぞれの改革や地方分権の取組など

安全・防災・震災復興・・・治安維持や災害対策、東日本大震災などの大規模災害からの復興に関する取組など

- ③ グループの人の発表を聞いて、疑問に思った点はありましたか。また、疑問に思ったことに対する回答はどのようなものだったでしょうか？整理してみましょう

疑問に思った点	回答

ワークシート（国政版）

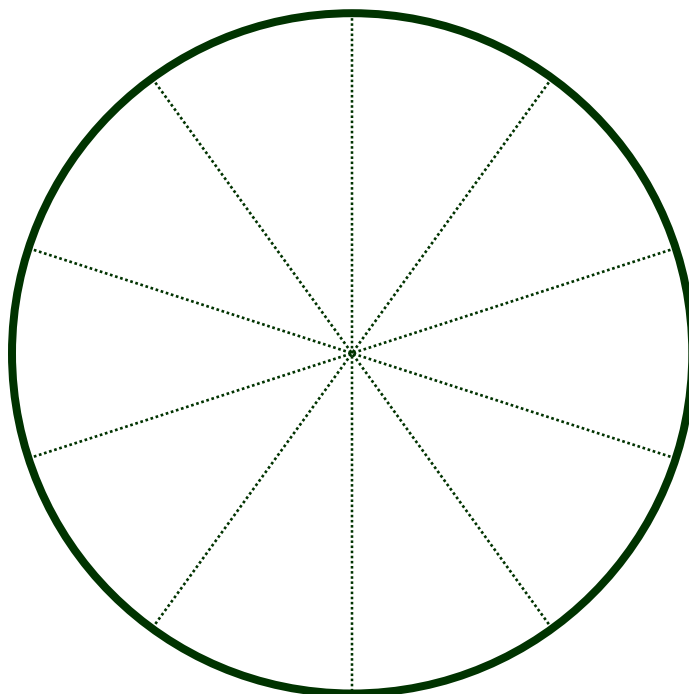
① 注力分野一覧表を埋めてください。

政策分野	政策注力度	政策分野	政策注力度
社会保障	%	税財政・財政再建	%
産業政策	%	労働	%
社会資本整備	%	環境・エネルギー	%
教育・子育て	%	安全・防災・震災復興	%
農林漁業	%	外交・安全保障	%

記入にあたっての注意

- 政策注力度は合計が100%になるように記入ください
- 政策注力度は整数で記入ください
- 0%や" "（空白）も可能です

② 政策注力度の円グラフを作成してください。（補助線の目盛り：10%ごと）



ワークシート（国政版）

政策分野の内訳

社会保障・・・医療・介護・年金や社会的弱者に対する取組など

産業政策・・・企業への支援や規制、企業活動のインフラ整備など

社会資本整備・・・物理的なまちづくりの取組や道路網の整備など

教育・子育て・・・学校教育や子育て支援、文化振興の取組など

農林漁業・・・食の安全や農業や水産業の振興に関する取組など

税財政・財政再建・・・税制や財政に関する取組など

労働・・・雇用や就職支援、就労環境整備に関する取組など

環境・エネルギー・・・公害や環境問題、エネルギー政策に関する取組など

安全・防災・震災復興・・・治安維持や災害対策、東日本大震災などの大規模災害からの復興に関する取組など

外交・安全保障・・・国際社会や他国との連携や、国外からの攻撃や侵略に対して安全を保つための取組など

- ③ グループの人の発表を聞いて、疑問に思った点はありましたか。また、疑問に思ったことに対する回答はどのようなものだったでしょうか？整理してみましょう

疑問に思った点	回答

参考資料（国政版）

本ワークの実施に当たり、生徒たちが該当する政策分野の具体的な取組を想像できないことがしばしば生じているようです。参考資料として、2016年参議院議員選挙の選挙公約において示された各分野の政策を例示致します。（参照資料：政治山「参議院議員選挙2016「重点政策・公約比較表」）

※恣意性を極力排除するために、比例区で議席を得た政党の公約のうち、複数の政党で主張された政策を中心に「政策例」を抜粋しています。（一部の政策分野では一政党のみの政策例を記載していることもあります。予めご了承ください）

政策分野の内訳	政策例
社会保障・・・医療・介護・年金や社会的弱者に対する取組など	社会保障のための財源確保の方法、年金支給額や医療、介護等の自己負担金額、介護職員の待遇改善 等
産業政策・・・企業への支援や規制、企業活動のインフラ整備など	GDP増加政策 成長戦略、規制改革 働き方の変革 等
社会資本整備・・・物理的なまちづくりの取組や道路網の整備など	道路や橋、上下水道、堤防などの長寿命化、老朽化対策 等
教育・子育て・・・学校教育や子育て支援、文化振興の取組など	待機児童対策 給付型奨学金 保育士の処遇改善 等
農林漁業・・・食の安全や農業や水産業の振興に関する取組など	TPP 6次産業化の推進 農業者個別所得補償制度 等
税財政・財政再建・・・税制や財政に関する取組など	機動的な財政政策 財政健全化 財政の見える化 等
労働・・・雇用や就職支援、就労環境整備に関する取組など	非正規・正規の格差是正 同一労働同一賃金 長時間労働の是正 労働者派遣法 等
環境・エネルギー・・・公害や環境問題、エネルギー政策に関する取組など	原子力発電の是非 再生可能エネルギーの活用 地球温暖化対策 等
安全・防災・震災復興・・・治安維持や災害対策、東日本大震災などの大規模災害からの復興に関する取組など	東日本大震災、熊本地震の復興、復旧、被災地支援（法整備や支援金等の推進） 原子力災害への対策 等
外交・安全保障・・・国際社会や他国との連携や、国外からの攻撃や侵略に対して安全を保つための取組など	日米関係 中国、韓国、ロシア等、近隣諸国との関係改善 核兵器廃絶 平和安全法制、集団的自衛権 等

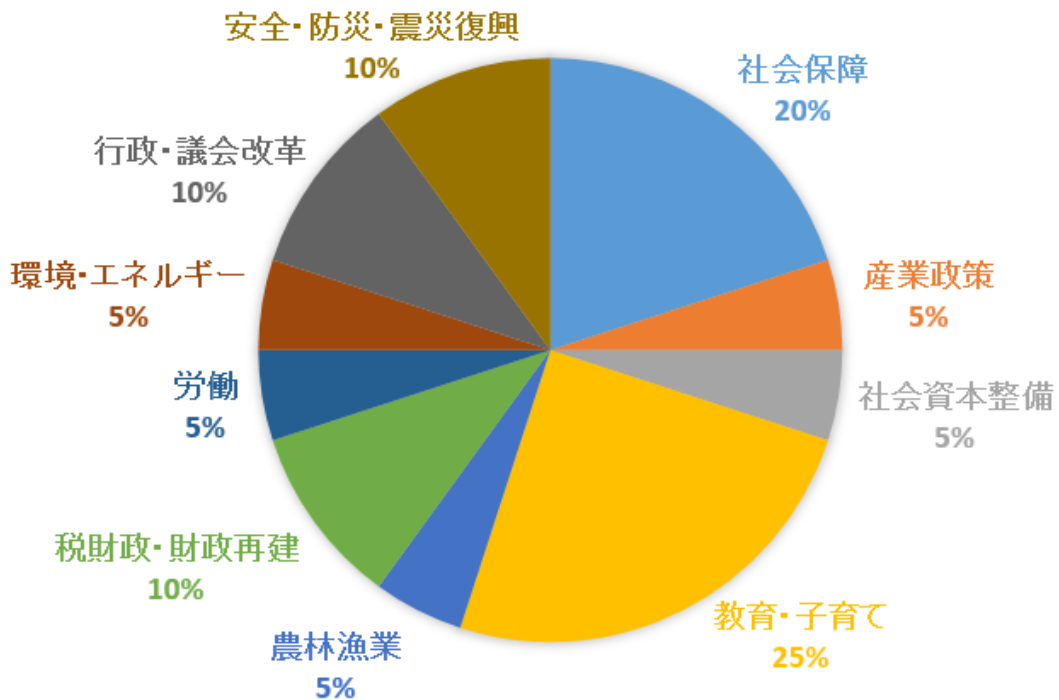
記入例（地方政治版）

※国政版は割愛

① 注力分野一覧表

政策分野	政策注力度	政策分野	政策注力度
社会保障	20 %	税財政・財政再建	10 %
産業政策	5 %	労働	5 %
社会資本整備	5 %	環境・エネルギー	5 %
教育・子育て	25 %	行政・議会改革	10 %
農林漁業	5 %	安全・防災・震災復興	10 %

② 政策注力度円グラフ



③ グループの人の発表での疑問に思った点とその回答

疑問に思った点	回答
① Aさんは、社会保障への注力度が50%とかなり高かった点	① 使用されている予算の割合を参考に作成したとのことであった（民生費は4割強の支出になっていた）。
② Bさんは、社会資本整備の割合が0%になっていた点	② 社会資本整備よりも若者の終了支援など、自分に直接的なつながりを感じられる政策を重視したいとのことであった。

指導のポイント

政策分野ごとの注力度を考えてみることで、生徒たちは体系的にまちのことを考えるきっかけを得ることができます。その中で、これまでに気づくことができていなかった重要なテーマに気づくこともあるかもしれません。選挙に際し、「この政策が望ましい」などの意見を一人ひとりが持つことは、選挙を政治参加の機会として機能させていくための基礎的な条件の1つとなります。このことは、本ワークの実践を通して、ぜひ確認しておきたい事項です。

なお、本ワークはそれぞれの考えの正しさや優劣を競うものではありません。生徒間で注力度合の根拠をめぐって、ある者の考えが正しいかどうかや、優れているかどうかなどの論争が起こらないように注意する必要があります。

一方、多種多様な政策争点が論じられる選挙において、最も自分の選好に合う候補者を見付けることは、時間的にも、能力的にも非常に負担の大きい行為となります。有権者の多くは、効率よく判断、決断するためのヒントを得るために、様々な情報源（政党やメディア、信頼できる情報提供者等）や、情報の整理の仕方（本ワークの様な可視化の方法や政策の比較一覧表等）を自分の対応できる方法・範囲のなかで活用し、投票に代表される政治・行政への評価、意思決定を行っています。そのような状況を伝えていくことも、若者から政治や選挙を必要以上に遠ざけてしまうことを避けるためには、重要な意味を持てきます。

なお、注力分野は、作成をしたタイミングでの重大問題によっても左右されることがあります。リフレクション（問いかけ）において、自然災害などを例に出してその可能性について言及していますが、注力分野一覧表を確認する側は、作成をした当事者を取り巻く事情や環境に配慮して、そこに示された事項を確認することも大切な姿勢となります。このように情報の解釈にあたり、相手（当事者やその批評をする者）の立場を慮り、自分自身の状況と比較したうえで評価をしていく姿勢は、多くの情報に囲まれて暮らす私たちにとって必要なことです。また、自分自身がどのような情報を得たうえで意思決定をしていきたいのかを日頃から考えておくことも同時に重要なこととなります。

投票の質を高めるためには、日頃からの学習・体験の積み重ねが必要になることが指摘されています。他の世代に比べて社会的な経験や知識が限られてしまいがちな若者が効率的に必要な情報を発見していくためには、学校図書室との連携を図ることなど、外部の専門的な機関を紹介し、結び付けていくことも有力な取組みとして考えられます。

Column 「学校図書室との連携」

明るい選挙推進協会による模擬選挙の特集では、学校図書室による取り組みも取り上げられています。

- ・ 県内の保育園や幼稚園、待機児童の数や経年での推移
- ・ 県内の医師、特に産婦人科医の数とその経年推移
- ・ 犯罪発生件数と警察官数の推移

公開討論会などで、多くの関心を寄せられる暮らしの安心・安全に関する分野に絞って、実際に議論がなされた項目を取り上げてみましたが、これらに係る統計情報をすぐにみつけることができるでしょうか。

公開されている統計情報は種類も多く、どこにどのような情報があるのかを把握するのが難しいこともあります。また新聞記事などを公平性に注意しながら整理していくことも大変なことです。

そのため、模擬選挙に代表される様々な主権者教育の取り組みの質を高めるためには、授業を担当する先生のみで取り込まれるのではなく、学校図書室をはじめとする学内の様々な資源を活用し、学校全体で連携・協力し、負担を分担しながら取り組んでいくことが考えられます。加えて、多様な情報や情報源をもとに授業を組み立て、生徒たちがそれらの情報の存在や、図書館を通じた情報収集の仕方を学ぶことは、生徒たちにとっても卒業後に生きてくる知識、技術の習得につながるのではないのでしょうか。

図書館は地域の情報、文化の拠点です。図書館を用いた情報収集の方法を知ること、主体性のある主権者を育てていく上でも有益なことだと言えます。

主要参考文献

- 明るい選挙推進協会「Voters No.8」、2012年6月
「あたらしい憲法のはなし民主主義」企画編集委員会（編）『あたらしい憲法のはなし・民主主義—文部省著作教科書』展望社、2004年
飯田健、松林哲也、大村華子『政治行動論』有斐閣ストウディア、2015年
久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝『政治学〔補訂版〕』有斐閣、2011年
常時啓発事業のあり方等研究会「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書、2011年